



素晴らしい1年のスタート！

新年度がスタートして、はや2週間が過ぎました。令和6年度は58名の新入生を迎え、全校で318名での船出となりました。職員の顔ぶれも大きく変わり、子どもたちも心機一転、期待に胸を膨らませているのではないのでしょうか。保護者の方のほとんどが御存じだと思いますが、大明小学校は今年度で開校137年を迎えました。宮沢、鮎沢、江原の統合により、明治20年に創立されました。以来、多くの卒業生を送り出し、この地の文化と教育の拠点としてその役割を果たしてきました。また、昨年度からは甲西中学区の3小1中で小中一貫校として新たなスタートを切りました。義務教育9年間を見通した教育活動の充実を図り、子どもたちがスムーズに中学校へ進学できることを目標にしています。小中学校の職員が子どもたちに対して同じスタンスで接し、子ども、保護者にとっても違和感のない甲西地区の義務教育活動につなげていきたいと願っています。

さて、私も赴任以来3週間余りが経過し、子どもたちの素直さにはびっくりしています。登校時のあいさつ、学校内での気さくに接する態度、そして何より6年生の勤勉さ。学校教育は1年ごとの勝負ではありますが、各学年の時の取り組みの集大成（積み重ね）が6年生の姿となって現れると思っています。歴史ある大明小学校の大きな看板を背負い、たくましくも優しく生活する6年生の姿は、下級生の大きなあこがれになると信じています。もちろんその陰には各御家庭の支えがあります。今年も子どもたちのより良い成長を願い、各御家庭と学校とがしっかりと連携を図っていききたいと思っています。よろしくお祈りします。

違うから楽しい

始業式に子どもたちに「お互いの違いを認めていこう」という話をしました。本校に318人の子供たちがいます。当然のことですが、同じ人は誰もいません。身長も、声も、性格も何もかもすべてが違います。違うことを攻撃したり、認めなかったりするのではなく、「違いを認め」互いに理解することで人として大きく成長できます。時にはけんかする時があってもいいし、思いのたけをぶつける時があってもいいと思います。それでも最後には互いの存在を認め、補い合っていくことで皆が気持ちよく生活できます。違うことは決して悪いことではなく、違う人がいるから自分として生きられるのです。大事なことは「みんな違って良いし、違うから良い」のではないのでしょうか。それは決して我慢することではなく、友達のいいところを見ていくことで自然に気持ちを切り替えることができます。今年度、大明小学校の全員で「違いを認める」ことをしっかりと意識し、学校生活を楽しくしていきたいと願っています。保護者の皆様も、何かお気づきな点がありましたら、遠慮なく学校まで連絡をお願いします。

学校だよりの「千載不朽」（せんざいふきゅう）とは、大明小学校教育に尽力された、故深沢深徹先生の頌徳碑（特別棟南）に刻まれている言葉からいただきました。「いつまでも朽ちることなく、その価値を失わず永遠に向上心を持ち続ける」という意味になります。